

## 2017年第3期1課 パウロ―異邦人のための使徒 7月1日

### A クリスチャンの迫害者

- ❖ ユダヤ人たちはステファノのイエスがメシヤであるとのメッセージに反論することはできず、彼ら、特にパウロ、はいらだったのです。
- ❖ 彼らはステファノに真実で対決することはできず、偽りの証人を見つけてイエスが神殿と律法について良くないことを言っていたと証言させたのです。(使徒言行録 6:11-14)
- ❖ 若きサウロはサンヒドリンの判決を支持しました。彼はステファノの石打ちを目撃し、賛同していたのです。(使徒言行録 7:58、8:1)

### B サウロの回心

- ❖ サウロは教会を悪魔的な怒りで迫害し、それを宗教的な熱心とっていました。
- ❖ 彼は異端を破壊する思いにとらわれていました。しかし、彼の良心はステファノが無実であることを語り、彼の理論は正当でした。
- ❖ 全てはダマスコへの途上で変えられたのです。イエスは彼に現れて彼の恵みを示されました。彼が十字架につけられたメシヤを拒む全ての言い訳が散らされたのです。

### C ダマスコでのサウロ

- ❖ サウロはユダの家で3日間盲目の状態でした。アナニアが言ったようにクリスチャン達はサウロが彼らに不意打ちをかけるために盲目と見せかけていると考えていました。
- ❖ イエスはアナニアにサウロが真摯であることを示されました。彼に視力を回復させたのち、アナニアは彼に生涯をイエスに捧げ、バプテスマを受けることによってそれを示すように招きました。(使徒言行録 22:16)
- ❖ サウロはダマスコでクリスチャン達の信仰を止めたいと願っていました。しかし、彼は悔い改めて福音を全世界に宣べ伝えるキリストの兵士となったのです。

### D 福音が異邦人に伝わる。

- ❖ 最初の異邦人たちへの伝道旅行はアンティオキアで起こったのです。そして、それは大変実りあるものでした。
- ❖ エルサレムのクリスチャン達はその成功を聞いた時、彼らはバルナバをそこに送りました。彼はその都市における機会を見てサウロに彼のことを手伝いに来てくれるよう頼みました。
- ❖ そして教会が設立され、それを支える指導者たちが十分に与えられたとき、聖霊はサウロが異邦人たちに福音を宣べ伝えるよう召しました。

### E 教会内での対立

- ❖ 福音は非ユダヤ人に伝えられました。最初はサマリヤでそして当時の世界のすみまで伝えられました。
- ❖ しかし問いが生じました。異邦人たちをどのように扱うべきだろうか。彼らも割礼を受け、モーセの律法を守るべきなのか。イエス様を信仰することのみで充分であろうか？
- ❖ エルサレム 会議(使徒言行録 15章)はこれらの質問を明確にすることであった。しかし、ファリサイ人達は頑固に彼ら自身の考えを伝えようとした。
- ❖ これがガラテヤ信徒への手紙の背景である。